

ピエール・ド・フェルマー



数理科学科

27014652 阿野 夏実

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%94%E3%82%A8%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%83%BC>

フェルマーとは・・・

- フェルマーの小定理
- フェルマーの原理
- フェルマーの二平方定理
- フェルマーの最終定理

フランスの数学者
教論の父と呼ばれる

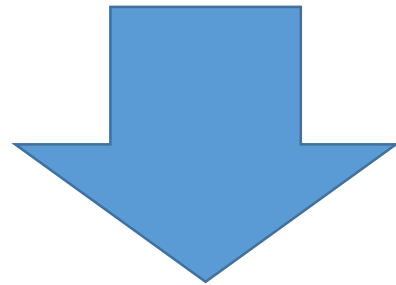
などなど作りました

生涯

1607～1608	南フランスのトゥールーズ近くのビュー mont・ド・ロマーニュで生まれる
1631	トゥールーズの請願委員となり、母の従 姉妹のルイズ・ド・ロンと結婚
1648	トゥールーズ議会の勅撰委員となる(死 ぬまでこの地位にあり続けた
1665	死去

最終の定理のできたきっかけ

「方程式 $x^n+y^n=z^n$ が $n \geq 3$ の場合、 x, y, z は 0 でない自然数の解を持たない」



できたきっかけは...

彼の愛読書である『算術』(ディオファントス著)の余白に書き込んだメモがきっかけである。

最終の定理の証明

1640	フェルマー自身の証明 ($n=4$)
1753~1770	オイラーの証明 ($n=3$)
1823	ソフィ・ジェルマンは $n=$ 「奇素数 p で $2p+1$ も素数の場合・・・」を証明
1825	ディリクレとルジャンドルの証明 ($n=5$)
1832	ディレクレは $n=14$ を証明
1839	ラメは $n=7$ の場合を証明
1995	アンドリュー・ワイルズによって解決

フェルマーの小定理

p を素数とし、 a を p の倍数でない整数 (a と p は互いに素) とするとき、

$$a^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$$

すなわち、 a の $p - 1$ 乗を p で割った余りは 1 であるというもの。